

## 令和2年度 第3回浜松市市民協働推進委員会

日 時：令和2年12月25日(金) 15時～17時00分

場 所：浜松市役所 本館8階 第3委員会室

出席者：木村佐枝子委員長、須山嘉七郎副委員長、加藤小凜委員、鈴木春光委員、  
成瀬記言委員、橋本成美委員、廣瀬稔也委員、古橋理委員、村木則予委員  
(オブザーバー) 今中秀裕浜松市市民協働センター長

報道関係：1名

傍聴者：2名

事務局：奥家市民部長、藤田市民協働・地域政策課長、松下市民協働・地域政策課長補  
佐、氏原主幹、鈴木康太主任、吉原、石井、高橋

---

### 会議次第

#### 1 開会

#### 2 議事

- (1) 浜松市企業のCSR活動表彰の選考について
- (2) その他

#### 3 閉会

## 1 開 会

事務局：ただ今から、令和2年度第3回浜松市市民協働推進委員会を開催する。  
本日は、小林委員から欠席される旨の連絡をいただいております、9人の委員で会議を進める。

また、今中市民協働センター・センター長には、オブザーバーとして出席いただいている。既にお知らせしたとおり、当初本日の議案に挙げられていた夢基金の審査については、制度の見直しの都合により本日は審査を見送る。また、CSR活動について委員の皆様から事前に出た質問については、企業からの回答を得ているので、配布した回答を各自ご確認ください。本日の終了時刻は、17時を予定している。

事務局：それでは、ここからの議事進行は、木村委員長にお願いします。

木村委員長：初めに、本会議の公開・非公開について確認する。本委員会の会議については、原則公開となっている。本日は、CSR活動表彰の選考があり、選考の審議を非公開とすることも可能である。会議の透明性という点から公開で行いたいと思うがいかがか。

—委員一同異議なし—

委員の皆さんから同意をいただいたので、本日の会議は全て公開で行う。

—傍聴者3名入室—

## 2 議 事 (1) 浜松市企業のCSR活動表彰の選考について

木村委員長：本日はCSR活動表彰の選考をしていただく。

まず、選考方法や留意点について、事務局に説明を求める。

事務局：※選考方法、留意点について説明。

受賞者は、本日の結果を踏まえて、1月中旬頃に市長が最終決定する。市長表彰式を3月3日(水)、受賞者表彰式を市民協働センターにて3月18日(木)に予定している。

木村委員長：事務局から説明があったように、浜松市企業のCSR活動表彰実施要綱第6条第2項により、応募企業と近しい関係性を有する場合は、当該企業の選考に加わることができないとされている。該当がある委員は、申し出をお願いしたい。

〔古橋委員と廣瀬委員から近しい関係性を有する企業からの提案があるとの申し出あり。〕

該当する企業の選考の際は、控室に移動していただく。

それでは、1件ごとに選考を行う。1件につき5分で進行していきたい。

【各企業の活動について審議】15件

木村委員長 : 以上、15 件の選考が終わったので、全体を通じて採点の最終確認をする時間を設ける。時間は、5 分程度でお願いしたい。

**【採点の最終確認】**

木村委員長 : 集計作業のため、休憩に入る。

**【休憩】※事務局：集計作業**

木村委員長 : 会議を再開する。ここから、受賞企業の候補を決めていきたい。まず、集計結果について、事務局から説明を求める。  
※集計結果について説明。

事務局 : 30 点以上が受賞候補となる。15 件全てが 30 点以上という結果となったため、全ての企業を受賞候補とするがよろしいか。  
—委員一同異議なし—

木村委員長 : 次に、優秀賞、特別賞、市民協働奨励賞の候補を決めていきたい。事務局から説明を求める。

事務局 : ※優秀賞、特別賞、市民協働奨励賞について説明。

木村委員長 : それでは、優秀賞の候補について、決めていきたい。意見はあるか。慣例では、上位 5 社を優秀賞の候補としているが、いかがか。

事務局 : 上限が 5 社ということなのだが、観点としては、上位 4 位までが 40 点以上で、5 位は 30 点台なので、40 点をラインとして上位 4 社までとするか、慣例通り上位 5 社とするか、であると考えてる。

須山副委員長 : 5 つ挙げればベストだろうが、4 位と 5 位が点数が離れているし、切りのいいところで 40 点をラインとしたほうがわかりやすいかと思うがいかがか。

鈴木委員 : 上から 4 つまでで良いと思う。

木村委員長 : それでは上位 4 社を優秀賞とするがよろしいか。  
—委員一同異議なし—

木村委員長 : 次に、特別賞の候補として相応しい企業があるか。意見を伺いたい。ベスト 5 に残りながら優秀賞の選考に漏れた企業や、マグロの解体ショーを行った企業は非常にユニークな取組みであると思う。

事務局 : 過去の受賞理由の中には、取組みそのものが興味深いものだけでなく、取り組む社内の体制が興味深いという観点での受賞もあった。今回、新規性・先駆性といった観点から見ると、橋本委員から指摘のあった、インスタグラムを活用した取組みをした常盤工業や、コロナ関係の取組みをしたリコージャパン

は、リアルな取組みが難しいので動画配信で対応している。村木委員からは、杉山メディアサポートはアンケートを実施して客観的に分析を行っており素晴らしい取組みだという意見が出されている。

木村委員長 : 受賞の数に制限はないとのことだが、他に何か意見はないか。

古橋委員 : マックスバリュ東海の「ひとり親支援」は、これからコロナの流行がひどくなる中では必要な取組みであると思う。

橋本委員 : CHILL DINER の取組みは良いと思う。マグロの解体ショーが面白いというだけでなく、本業を生かしたものであるし、子供たちだけで作れるものを提案し、自分たちがいなくてもできるよう土鍋を寄贈するなど、受賞にふさわしい取組みであると思う。

須山副委員長 : 先ほど挙げられた中で、ひとりよがりにならぬようアンケートを取って活動に客観性を持たせているのは素晴らしいという意見があった。これは自薦になっているものが多い中で特別な意味があり、村木委員の指摘はもつともである。これを受賞理由として出せば、他も追随してくれるのではないか。

今の意見をまとめると、CHILL DINER、杉山メディアサポート、マックスバリュ東海の3社が出ているが、いかがか。

廣瀬委員 : マックスバリュ東海は、大企業であるだけに、保管スペースの格安提供という段階で評価するのではなく、売れ残った食材の提供などの本業を生かしたさらなる活動を期待したい。

村木委員 : 倉庫を提供していることしか書かれていないが、子ども食堂の支援を以前からしているようだが。

事務局 : 余った野菜を使ったレシピを提供するという取組みをしている。ひとり親家庭への支援については、今後力を入れていきたいとのことである。

成瀬委員 : マックスバリュ東海は、食材を保管するための倉庫を提供するのがメインだが、それは今回の活動のメインではないと思うので、そこを考えて評価したほうが良いと思う。

木村委員長 : こういった意見は、企業に伝えることはできるのか。

事務局 : 今後の取組みに生かせるような意見はフィードバックすることを考えている。

木村委員長 : それでは、マックスバリュ東海は次回さらなる取組みを、とお伝えし、CHILL DINER と杉山メディアサポートが特別賞ということでよろしいか。

—委員一同異議なし—

木村委員長 : 次に、市民協働奨励賞の候補について意見を伺いたい。

鈴木委員 : 地域からの推薦という枠だと、常盤工業と唯心のどちらかということになり、常盤工業は優秀賞と重複するので、必然的に唯心になると思うが。

木村委員長 : それでは市民協働奨励賞は株式会社唯心ということよろしいか。

—委員一同異議なし—

木村委員長 : 全体を通じて、3賞の候補と件数について意見があればお願いしたい。  
意見がなかったので、審議の結果、優秀賞は、常盤工業(株)、(株)アイジーコンサルティング、(株)サツ川製作所、不二総合コンサルタント(株)、特別賞は、(株)CHILL DINER、杉山メディアサポート(株)、市民協働奨励賞は、(株)唯心を受賞候補として決定する。

なお、本日の委員会の受賞候補の決定を踏まえて、市長が受賞者を最終決定するという点に留意していただきたい。

以上で、「(1)浜松市企業のCSR活動表彰の審査について」の議事を終了する。

(2) その他

木村委員長 : 事務局からその他の連絡事項等があればお願いしたい。

事務局 : 次回開催は3月20日前後を予定している。

**3 閉会** : 以上をもって、令和2年度第3回浜松市市民協働推進委員会を閉会する。